



2024

学校だより 本荘 Smile

令和6年度 第47号
令和7年3月24日
熊本市立本荘小学校
校長 西川 英臣

令和6年度修了式。その中でお話ししたこと。「一隅を照らす」について。

令和6年度

修了式

大切なあなた方のために



これからも
思いやりの心で
笑顔の本荘小

あっという間に、令和6年度が終了しました。本日は3月24日修了式の日でした。修了式とは、学校でその学年の学業を修了した際に、その学年教育課程をすべて終えたことを祝う式典です。ですから、何を話すか大変思案いたします。今年度の締めくくりは「一隅を照らす」の話にすることにしました。

皆様は、中村 哲さんをご存じでしょうか。中村さんは、戦乱と干ばつに苦しむアフガニスタンで、36年間にわたり、人道支援を続けた医師です。また、井戸の掘削や用水路の建設にも取り組み、多くの命を救ったすばらしい方です。昭和59年パキスタン北部ペシャワールの病院に赴任、医療支援に取り組みられました。アフガニスタンを大干ばつが襲って以降は、水資源の確保にも取り組み1600本以上の井戸を掘削し、25キロ以上にもおよぶ用水路を建設、砂漠化した大地に緑を蘇らせました。令和元年に戦乱に巻き込まれお亡くなりになりました。貧困という荒野を緑豊かな大地に変えることを夢見た73年の生涯だったといえます。実は、卒業した6年生に「校長先生からの最後の授業」ということで、社会科の学習を8時間ほどしたのですが、その時に取り上げた人物でもあります。他の学年のみなさんにも、ぜひ知ってもらいたい人だったからです。

その中村さんは、「一隅を照らす」という言葉が好きでした。「一隅」とは「かたすみ」のことです。もしかしたら、あまり目立たない場所のことかもしれません。「照らす」とは「光をあてて明るくする」ことです。となりの困っている人のためにやさしく力になることで、自分も、まわりの人も明るい気持ちになる。そんな言葉です。「自分が今いる場所で、自分にできることを一生懸命やりましょう。」そんなメッセージが、この言葉には込められています。だから中村さんは好きだったのでしょう。ですので、校長として、この中村 哲さんの生き方を年度の最後に取り上げました。校長の私が、本荘小に赴任以来、いつもこどもたちに伝えている「思いやりの心」それを具現化する行動が「一隅を照らす」ことなのです。こどもたちはしっかり理解してくれるものと信じています。

令和6年度も本荘小学校のこどもたちはがんばりました。そして、令和7年度は創立150周年の年です。みんなで盛り上げていかなければなりません。その期待を込めて今年度最後のお話をした校長先生なのでした。みんな!!4月からもがんばりましょうね(^_^)

保護者の皆様、令和6年度も本校の教育活動へのご理解ご協力、誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。そして、令和7年度もよろしくお願い致します。(校長) (裏面へ続きます)

※ここまで書くと最後の学校だよりになりそうですが、私のネタ帳には、まだまだこの3学期にかけていなかったことがいっぱいあります。令和6年度が終了する3月31日まで、メール配信等で学校だよりは発行していきますので、よろしくお願い致します。

校長先生の虫眼鏡 3学期修了式「一隅を照らす」

令和6年度 修了式講話

1年生から5年生の皆さん、大きな声できれいに挨拶をしましょう。おはようございます。あー、立派な挨拶ですね。では、話を始めます。聞く姿勢を準備してください。

先週、6年生は卒業しました。6年生らしい、純粹で感謝の気持ちにあふれた卒業式となりました。その式を陰ながら支えてくれたのはみなさんです。1年生から5年生までが参加しての卒業式。他の学校ではできないことなのです。また、式の準備のために式場や廊下を掃除してくれました。こんな時だからこそ、卒業生を送り出すのだという責任感と熱意を感じていますよ。今日は、令和6年度の最後、修了式です。本当に1年間はあっという間でしたね。みんなしっかりとがんばったと思います。校長先生は、この1年間皆さんに色々なお話をしてきましたが、さて、最後のお話をしますね。人の生き方についてのお話をしたいと思います。

この方は、中村 哲さんという方です。お医者さんなんです。でも、ただのお医者さんではありません。この方はアフガニスタンという国のために自分の人生を尽くした人です。戦争で国内が荒れ果てたアフガニスタンという国があります。4年生のみなさんは、国語の「世界一美しいぼくの村」というお話を勉強しましたね。実は6年生のみなさんにもこの中村さんのお話をしました。社会科の授業で校長先生がしたんですよ。

この方は、アフガニスタンという国のために、お医者さんとして多くの人を救いました。病院もなく困っている人たちに一生懸命に働いたのです。でも、それだけではありません。中村さんは、砂漠を緑に変えたお医者さんなのです。当時のアフガニスタンは、干ばつという災害でもともと苦しい国でした。そこに戦争で、いろいろなものが壊されひとびとはたいへん困っていたのです。

この用水路は中村さんたちがつくったものです。しかし、中村さんはお医者さんです。こんな水路なんかつくったことありませんでした。でも、たとえ素人でもみんなのためになることを!!ということで、自分でなれないブルドーザーやパワーショベルを運転してこの水路をつくり始めたのです。これはその水路に水が流れた時の様子です。NHKのニュースにもなりました。でも、あんまり格好のよいものではありませんね。専門家がつくったのではないのですから、あたり前です。しかし、この努力が人々を救うのです。

この用水路ができてからのアフガニスタンの様子です。乾いた畑に水が入れられ、田んぼができました。荒れ果てた耕地に生きる希望を与えたのです。みんなが生きるために農作業をしていますね。誰も働くことが苦しいと思いません。作物を育てる喜びに満ち溢れていますね。中村さんは、苦しい人たちのために一生懸命に働いて、働いてこの国のために尽くしました。多くの人々を救いました。しかし、73歳で戦いに巻き込まれ、銃で撃たれてお亡くなりになりました。中村さんを死に追いやったのも戦争なのです。戦争は絶対にしてはいけません。中村さんの生き方は私たちにそのことを教えてくれます。この記事を見てください。(記事を読む)

中村さんは、「一隅を照らす」という言葉を残してくれました。「一隅」とは「かたすみ」のこと。もしかしたら、あまり目立たない場所かもしれません。「照らす」とは「光をあてて明るくする」こと。となりの困まっている人ひとのためにやさしく力になってあげることで、あなたも、まわりの人も明るい気持ちになっていくでしょう。そして、<自分が今いる場所で、自分にできることを一生懸命やりましょう>「一隅を照らす」にはそんなメッセージが込められています。みなさんも、中村さんの生き方を是非に学んでほしいと思います。

今日の中村さんのお話を聞いて、みなさんはどう思いましたか。中村さんの生き方は、大きなことではありません。一隅を照らすということはみんなのまわりですぐにできることなのです。困っている誰かのために力になること。これが本荘小の学びの中心なのです。みなさんも次の学年に向けて、一隅を照らしながら春休みを過ごしてほしいと思います。では、この続きは4月に!!これで校長先生のお話を終わります。